

人はなぜ伝えようとするのか？ —文化財による被災地復興のこころみ—

NPO法人 文化財保存支援機構主催 シンポジウム「今、文化財が社会にできることⅡ」

2014年 4月 26日 (土)

【会場】 東京大学 弥生講堂 一条ホール

4月 25日 (金)

13:30-16:30 パネル展示 (入場無料)

4月 26日 (土)

09:05-09:15 開会挨拶

1. 特別講演

09:15-10:30 「震災・文化・復興」

赤坂 憲雄 (学習院大学・教授/福島県立博物館・館長)

10:30-11:45 「危機管理に向けて」~1.17から3.11へ~

三輪 嘉六 (九州国立博物館・館長/
NPO文化財保存支援機構・理事長)

11:45-12:30 「比叢 三匹獅子舞」実演

解説：菅野 秀一 (比叢三匹獅子舞保存会・会長)

2. 事例報告

14:00-14:30 「ふるさとの宝を守るために—
陸前高田市における文化財レスキュー—」

熊谷 賢 (陸前高田市立博物館)

14:30-15:00 「旧警戒区域における文化財保護
—福島県双葉町のレスキュー活動から—」

吉野 高光 (双葉町教育委員会)

15:15-15:45 「相馬野馬追の復活と継承」

二上 文彦 (南相馬市博物館)

15:45-16:15 「被災民具の活用と継承
—長野県栄村の活動より—」

石野 律子 (神奈川大学日本常民文化研究所)

3. パネル・ディスカッション

16:15-17:15 「心の復興のために」

17:15-17:20 閉会挨拶

17:30-19:30 懇親会 (於：ホワイエ)

申込制・当日参加可

定員：300名

資料代：500円



特定非営利活動法人
文化財保存支援機構

【問合先】

〒110-0008 東京都台東区池之端4-14-8 ビューハイツ池之端102号

TEL : 03-3821-3264 / FAX : 03-3821-3265

E-mail : jimukyoku@jcpnpo.org / URL : www.jcpnpo.org

このシンポジウムは (公財) 朝日新聞文化財団の助成金によって行なわれます

人はなぜ伝えようとするのか？ —文化財による被災地復興のこころみ—

2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに続く原発事故により、東北各県は甚大な被害を被り、まだその傷は癒えていません。特に放射能汚染により避難を余儀なくされた被災地では、コミュニティ自体が崩壊の危機にあります。そのような中で、有形／無形の文化財を守ろうとしている人々がいます。特に民俗芸能は、いち早く活動を再開し、被災した地域住民の精神的支柱となっています。生活もままならない中で、なぜ彼らは故郷の文化を守り、伝えようとするのでしょうか？

本シンポジウムでは、津波被災地での被災文化財救援活動に加え、飯舘村や双葉町など、原発災害によりいまだ帰還の目処が立っていない地域に焦点を当てて、地域の歴史と文化の継承に努力している人々とその活動を紹介します。

日時

2014年

4月26日(土)

9:05~17:20 (開場 8:30)

4月25日(金)は 13:30~16:30

まで、展示物の内覧会を行います。

入場は無料です。

定員

300名

資料代

500円

懇親会

17:30~19:30

シンポジウム終了後、同会場
ホワイエにて懇親会を行います。
どなたでもご参加頂けます。

懇親会費：3,000円
(JCP 会員；2,500円)

場所

東京大学 弥生講堂 一条ホール



申込・問合先

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

〒110-0008 東京都台東区池之端 4-14-8

ビューハイツ池之端 102号

参加希望者は右記いずれかに、
申込必要事項（以下）をご連絡下さい。
当日参加も可能です。

TEL

03-3821-3264

FAX

03-3821-3265

E-mail

jimukyoku@jcpnpo.org

URL

www.jcpnpo.org

文化財保存支援機構ホームページ内
お問い合わせフォーム

FAX 参加申込書

① 氏名：

② JCP 会員 / 非会員

③ ご所属またはご住所：(〒)

④ 連絡先電話番号：

⑤ E-mail アドレス：

⑥ 懇親会：出席 / 欠席